

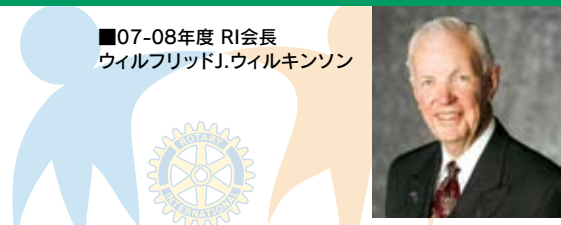


ロータリーは
分かちあいの心

WEEKLY REPORT

ROTARY CLUB OF NAGOYA MEINAN

URL <http://www.meinan-rotary.com> E-mail info@meinan-rotary.com



07-08年度 RI会長
ウィルフリッドJ.ウィルキンソン

名古屋名南ロータリークラブ

■承認/1991年3月8日 ■例会日/火曜日・PM6:30
■例会場/名古屋マリオットアソシアホテル
■事務局/〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号
名古屋マリオットアソシアホテル2202号
TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054
■会長/大隅 紀郎 ■幹事/杉山 隆秀 ■会報委員長/西村 己恵子

第821回

2008年6月24日(火) 晴 第45回

～ロータリー親睦活動月間～

斉唱 手に手つないで
出席 会員 73名 (出席率算入人数 70名)
出席 47名 出席率 67.14%
前々回補填率 89.86% (6月10日分)

◆会長あいさつ◆

会長 大隅 紀郎さん

いよいよ、最後の会長あいさつでございます。先般はIDMで、会員の皆様から花束をいただいたり、大変楽しいひと時を過ごさせていただきました。1年間振り返ってみると、今年度の一番大きな奉仕活動は、タイへ浄水機の寄贈でした。世界中でいろいろ悲惨な事件がいつぱい起きました。ミャンマー・中国の募金もそうですが、これからも皆さんに、ロータリーの精神で協力をさせていただいて、よりよい奉仕活動ができればいいなと思っております。



ニコボックスにも書きましたけれども、会長を終わったら終わりではないので、先輩諸氏と同じように、いちロータリアンとして、次の会長を引き立てて頑張っていきたいと思っております。これからもよろしくお願いいたします。

◆幹事報告◆

幹事 杉山 隆秀さん

1. 海外出張届
小澤 久隼さん 6/28～7/7 アメリカ 商用
2. 1月1日から、千種 RC の例会場が名古屋東急ホテルになります。
3. 会員の森昭勝さんが、6月いっぱい退会届けを出されました。
4. 辞められた酒井さんから、紹介できるかたがみえると、連絡が入っております。

◆ニコボックス◆

* 今日で会長の籍が抜けます。次週からはいちロータリアンとして皆さんと一緒にがんばります！

大隅 紀郎さん

* 今日が幹事としての最後の例会です。いたらぬ幹事でしたが、皆様のおかげで、無事、終わりました。

杉山 隆秀さん

* 長い間お世話になりました。ありがとうございます。

平野 鶏奈子さん

* 会長、幹事さん 1年間ご苦労様でした。

江村 雅夫さん 田中 省三さん

* 先週の RC ゴルフ会で優勝しました。うれしくて優勝賞金全額ニコボックスします。

伊藤 圭一さん

* 伊藤圭一さん、名南 RC 会での優勝おめでとうございます。又、児島さん、取切戦の優勝おめでとうございます。

山本 誠一さん

* 本年度、最後の例会です。皆様、ご苦労様でした。来

期も宜しく!!

入谷 直行さん	鈴木 清詞さん	犬飼りさ枝さん
山崎 淳さん	林 隆二さん	榊原 和美さん
武藤 正行さん	鈴木 厚司さん	川村 繁生さん
東山 直史さん	杉本 勇さん	平沼 里子さん
菊岡深智子さん	中村 勝さん	細井 俊男さん
新原 尚さん	宮寄 良一さん	久米 伸治さん
小野 雅之さん	川辺 清次さん	長尾 浅吉さん
三島多恵子さん	中西 芳子さん	浅井 浩さん
本多 利郎さん	朝比美和子さん	黒田 康正さん
柴田 照子さん		

本日合計 148,000円 累計 2,211,000円

◆委員会報告◆

●国際奉仕委員会 委員長 杉本 勇さん

今期は国際で、皆さんにご協力いただきまして、本当にありがとうございました。ご協力いただいたミャンマー・サイクロン被害と中国四川省地震災害の義援金でございますが、総額58,000円という大金をいただきました。皆様、ありがとうございました。来年もよろしくお願いいたします。

◆退会あいさつ◆

●会員：平野 鶏奈子さん

この17年間、本当にお世話になりました。チャーターナイトがまだこの間のような気がします。「井の中のかわず」の私でしたけれども、この17年間だけはちょっと社会に出たような気がして、本当に楽しいロータリー生活でした。いろいろいいことを教えていただいて、それを糧にして、これから多度の山の中で暮らしていきたいと思っております。私の望みは、ただ勉強すること

第823回例会(7月8日)のご案内

2008-2009年度活動方針報告
プログラム委員会、親睦活動・家族委員会、会場運営委員会

だけです。

それから、今、多度大社へ寄付する小さい記念館を造っております。今年の冬までにはできる予定です。皆さん、多度カントリーへおみえになるときは、ちょっと寄っていただけたらうれしく思います。ロータリーでは、ほんのちょっと社会人でいられたような気がして、感謝でいっぱいです。今後ともよろしくお願ひします。ありがとうございました。

◆クラブフォーラム◆

●次期幹事

鈴木 清詞さん

来週から新年度スタートということで、本日は次年度の委員会別の席に座っていただいております。本日は、次年度の方針について、各テーブルで、それぞれ話し合っていたいただきたいと思ひます。

今日、今年でメンバーが二人減という話がありました。そういった中で、一人当たりの会場費が、来年から200円ずつ上がるという状況になっています。メンバーの数を増やして一人当たりの固定費を下げていくか、あるいは会費を上げるか、いずれかの選択をしなければいけない時期が、早々来るのではないかとのことです。今、一生懸命予算を組んでおりますけれども、メンバーが減る中で、苦しい予算を組んでいるところです。次年度たくさん仲間を入れて、予算も楽しんでいただきたいなということもありますので、そちらのほうもよろしくお願ひしたいと思ひます。

◆ロータリー・ワールド◆

●6月はロータリー親睦活動月間

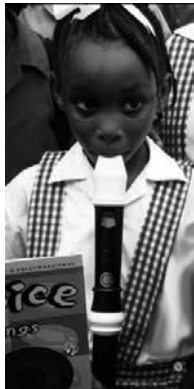
親睦活動プロジェクトがもたらした音色

グレナダの文化にとって、音楽は欠かせないものです。グレナダの子供たちは、小さな頃から楽器を習い始めます。しかし、2004年と2005年に度重なるハリケーンがカリブ諸島の国々を襲ったとき、その音色は、破壊された学校から消え去りました。

そこへ、ロータリアン音楽家の国際親睦グループが音楽を呼び戻そうと、同親睦グループの初めての人道的プロジェクトとして、グレンビルにあるセント・アンドリュース・ローマン・カトリック学校の音楽プログラムを再開するために2,500米ドルを寄付しました。5～15歳の500人の生徒が通うこの学校は、ハリケーンのために楽器と本のすべてを失いました。

「音楽は、私たちすべての心を動かします。音楽により生徒たちは、自尊心を養い、達成感を味わうことができます」と話すのは、シスター・ルーシー・ガブリエル校長です。寄付金により、ギター、バイオリン、ミュージックスタンド、カリブ音楽には欠かせないスチールドラム・セットの一部を購入することができました。

同親睦グループのメンバーで、英国、クリーブランドのギスボロー・アンド・グレート・アイトン・ロータリー・クラブのピーター・ソーサランは、昨年の式典で学校に寄付を渡しました。同氏はまた、3,000ドルの追加の寄付と、英国で同氏のクラブが寄贈者から集めた中古のリコーダー（本約28ドルの縦笛）を36本届けました。



ロータリアン音楽家の国際親睦グループのメンバーより寄贈された36本のリコーダーを試す、グレンビルのセント・アンドリュース・ローマン・カトリック学校の生徒。

「荷ほどきがすべて終わっていないうちから、子供たちは、リコーダーの音色がどのようなものなのかを試していました」とソーサラン氏は話します。同氏のクラブは、学校の図書館を建て直すためにグレナダ・イースト・ロータリー・クラブと協力しました。

ロータリアン音楽家の国際親睦グループは、1972年に結成され、その400人のメンバーは、RI国際大会を含むさまざまなロータリーの行事で音楽の演奏を行っています。音楽教育の推進を使命とする同グループは、グレナダでのプロジェクトと同様に、ほかの学校や地域社会でのプロジェクトにも資金提供を始めています。

●トルコの地震被災者に教えるボランティア

教授の職を退官したマーガレット・カーチス氏は、海外でESL（第二言語としての英語）を教える機会を探し始めたとき、ロータリーに目を向けました。ロータリーの



写真は、生徒とポーズを取るマーガレット・カーチス氏。

ボランティアとして、記憶に新しい多くの犠牲者を出した地震で被災した地域社会に行くことができるかもしれないと考えたのです。

RIウェブサイトではボランティアの仕事を探していたとき、トルコ、デギルメンデレのサライリ小学校で4週間教える、彼女のような人材を探している現地のロータリアンがいることがわかりました。トルコの北部沿岸地域にあるデギルメンデレは、1997年8月17日のイズミット地震の震源地近くに位置する町です。この地震は、1分弱という短い揺れにもかかわらず、17,000人以上の死者を出し、何千もの人をホームレスの状態に陥れました。

2007年7月、カーチス氏は、震災を生き延びた10歳から13歳の生徒たちに2つのクラスで英語を教えました。「生徒たちは若すぎて当時の恐怖を覚えていませんが、（この震災で）家族の人生は永久に変わってしまったのです」と、米国ケンタッキー州、ボーリンググリーン・ロータリー・クラブに所属するカーチス氏は述べています。

ウェスタン・ケンタッキー大学の宗教と哲学の名誉教授であり、教室という環境に慣れてきたカーチス氏ですが、デギルメンデレでは数々のハプニングに直面しました。例えば、教室の外でうるさく鳴き続けるヤギの声に、生徒の集中力が妨げられました。

また、あるときは、16歳ぐらいの少女たちが教室の外から授業を聴こうとしていたので、年下の生徒たちに教えるのを手伝ってもらおうと教室内に招き入れました。これはすぐに、「手伝う少女たちと生徒たちが皆、熱心に授業に参加し、学習の過程から学び合える妙案となった」と、カーチス氏。「驚いたことに、この教授法は大変効果があり、生徒たちはすらすらと英語を話し始めるようになったのです」

ボーリンググリーン・クラブは、ポスター、演習帳、ペン、ステッカーなどの学用品を寄贈し、また、今回のボランティア旅行を手配したココエリ・ゴルキョク・ロータリー・クラブの会員はカーチス氏を自宅に招待しました。「言語と文化を遥かに超える友情と温かい親睦を体験することができました」と、カーチス氏は振り返ります。

すべての出来事が積み重なって思い出深い旅行となりました。「子供たちが私の人生にこれほどの楽しさと情熱を与えてくれるとは想像だにしませんでした」とカーチス氏は語っています。